

～障害者支援施設梅ヶ丘の支援の特徴～

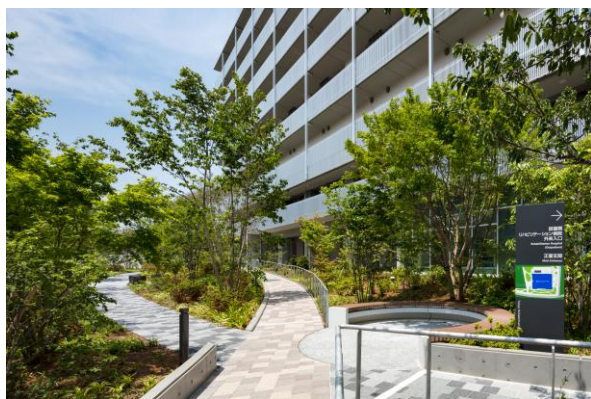
障害者支援施設梅ヶ丘は、 「地域移行」を目指し、 利用者の方の「意思決定支援」を 行う施設です

ご本人がその人らしく 生活できる場を

ご本人と関係者ととともに探していきます

「毎日同じ生活を望む」人や「張りのある生活を楽しまたい」人など、その人らしく生活できる場は様々です。

入所時に地域移行計画書を作成し、5年を目途に支援していきます。
5年以降については、地域移行支援の継続が必要な場合において1年ごとの更新となります。



地域移行とは？

「地域移行」とは、住まいを施設や病院から単に元の家に戻すことではなく、障害者個々人が市民として、自ら選んだ住まいで安心して、自分らしい暮らしを実現することを意味する。（「障害者総合福祉法の骨格に関する総合福祉部会の提言」2011年8月30日厚生労働省より）

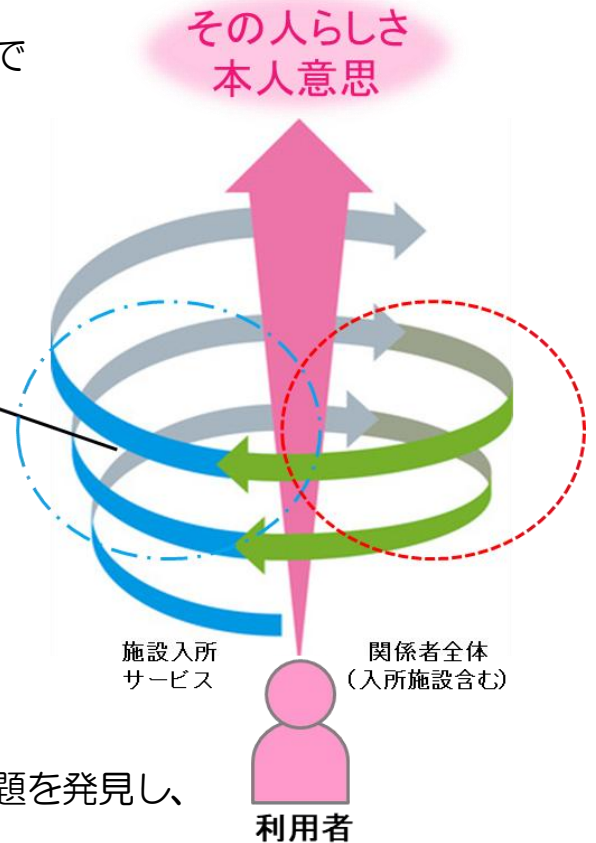
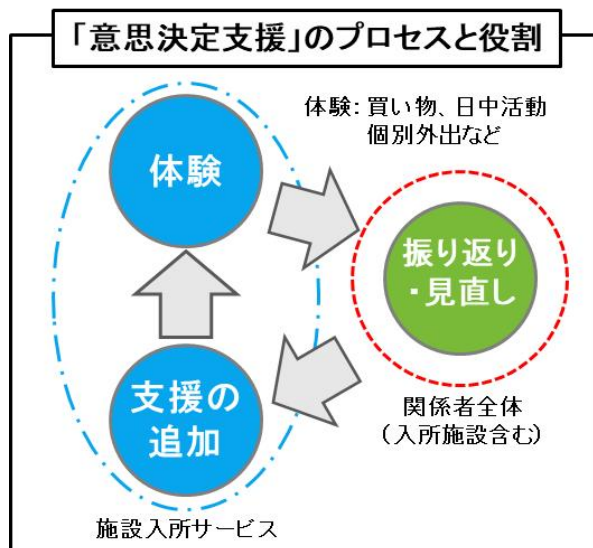
「地域への移行」はご本人の意思を中心に、
次の生活の場へ繋げていく必要があります
そのためのアプローチが障害者支援施設梅ヶ丘の
「意思決定支援」です

～意思決定支援のすすめ方～

「意思決定支援」の積み重ねにより、
その人のその人らしさが形づくられていきます

「意思決定支援」では、ご本人の施設生活における日々の選択や、
様々な体験を通じて、支援者はご本人の意思を確認し、
「体験エピソード」として記録していきます。

「体験エピソード」を積み重ね、関係者全体で
振り返り、支援を見直していきます。



「意思決定支援」を軸に地域移行に向けた課題を発見し、
ともに課題克服を目指していきます。

【「意思決定支援」のステップと取り組み】

ステップ	0期	I期	II期	III期
目標	●施設の生活に慣れる ●基本的なアセスメントを実施する	●アセスメントに基づいた支援の構築と、必要な支援量の確認	●施設内外での体験を増やし、移行に向けた意思決定の記録を積み重ねる ●移行先の方針を関係者で確認	●地域への移行
意思決定支援	意思表出方法のアセスメント	意思表出	意思形成	意思実現
取り組み	生活全般のアセスメントをとる 例)【生活全般】食事や入浴の評価、生活リズムの安定に向けた通院など	施設内での体験を通じ、 <u>どんな支援(内容と量)</u> があれば、落ち着いて過ごすことができるのかを確認する	施設内外での体験を積み重ね、移行先を考えるための意思決定支援のヒントを探す 例)【買い物へ行く】支援員と売店→支援員とスーパー→支援員と公共交通機関を利用する→地域生活に近づける	必要な支援の引継ぎを行う 支援の型を崩していくことで新しい環境変化への耐性を検証する

その人らしさ、
本人意思を
中心とした
地域移行に
つなげていく